

## ユリクビナガハムシの採集記録について

森 和 夫

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linné) を、自宅(川西市)にて採集することができたので報告する。

また、以前には、三田市在住の犬飼利也氏が、庭でハムシをよく見ると言われ、1頭を持って来て頂いたのが本種であった(データは後記)。これが初めて見る本種であったため、珍しい種類であることを強調し、居れば、もっと採集して頂きたいと、お願いしたが、その後は採集できなかったそうである。

食草として知られるユリの仲間は、身近かな植物であるため、注意してきたが、ユリクビナガハムシは、これまで、なかなか採集することができなかった。しかし、前記の、犬飼氏の例もあるので、園芸店でカノコユリやヤマユリ、スカシユリ等の鱗茎を買って来たり、野外でササユリやオニユリを見付けては、自宅の庭で育ててきた。これらのユリは、放任状態では、いつの間にか枯れてしまったものも多かったが、オニユリは非常に丈夫で、野外でムカゴを採って来ては庭へまいておいたところ、数年で大きく育ち、大きいものは2mを超える高さとなって多数の花を咲かせるようになった。

その後も、やはり、ユリクビナガハムシの方は、容易には姿を見せてくれなかったが、昨年(1990年5月)、そのオニユリの葉上に赤いハムシを見つけた。まさかと思ったが手に取って見ると、ユリクビナガハムシに間違いない。さらに、別の株を探したところ、もう1頭を得ることができた。

この2頭は、共に♂と考えられ、犬飼氏に頂いた個体より、ひと回り小型であった。いずれも殺さずに、空瓶に入れて飼育を試みた。後に♀も採集できればと思い注意したが、その後は1頭も得られなかった。

丁度、この飼育を行っていた時、「きべりはむし、Vol. 18, No.1」が手元に届いた。この号には、高橋寿郎氏と永幡嘉之氏がユリクビナガハムシについて詳しく紹介されておられたので大変参考になった。

Pacific Insects Vol. 3, No.1, p126(中條道夫・木元新作両博士)では、本種の分布は国外では、ヨーロッパ、シベリヤ、中国、メキシコ、ブラジル等が記載されている。また、この中で、食草としては、ユリの類、ネギ、スズランの類、ユキザサの類が掲げられているため、自宅の庭で栽培していたユリ科植物の葉を、試しに与えてみた。

先ず、オニユリと共に、カノコユリ、スカシユリを与えたが、オニユリばかり食べていた。しかし、

この中からオニユリを抜くとカノコユリヤスカシユリも食べるようになった。次に、ネギ、ドイツズラン、タカマホトトギス、キイジョウロホトトギスを与えたが、前記のオニユリ等を除いた状態でも全く食べる様子がなかった。広く分布する本種であるため、地域によって食性が異なるのかもしれない。

さらに飼育を続けたところ、6月下旬頃には、全く食草を食べなくなった。そのまま夏眠にでも入るかと思ったが、7月19日には2頭とも死亡した。飼育容器内が、乾燥し過ぎた等の、飼育条件に問題があったかもしれない。次回、本種を採集することができれば、もう少し飼育方法を工夫してみたいと思う。

〈採集データ〉

- ① 三田市藍本、20—V—1979. 1ex.,  
犬飼利也氏採集
- ② 川西市見野字山形、6—V—1990. 2exs.,  
筆者採集

終りに、貴重な本種を採集され、御供与頂いた犬飼利也氏に厚く御礼を申し上げます。

## ユリクビナガハムシ三木市大村にても発見

( 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 5 )

高 橋 寿 郎

ユリクビナガハムシ *Lilioceris meridigera* (Linné) については永幡嘉之氏が本誌上 (Vol. 18, No. 1, 1990) にて三木市での産地を詳しくまとめておられるが同じく永幡氏から三木市大村でも発見したとの御連絡を頂いたので此処に記録させて頂く (2exs., 28—IV—1990)。御連絡頂いた永幡氏に厚く御礼申し上げます。